

平成21年度事業報告書

自：平成21年4月 1日

至：平成22年3月31日

I. 総括

今年度は、日本の経済活動が低調であったにも関わらず、事業も計画に比して概ね着実に実行され所期の成果を収めることができ、一定の収入も確保することができた。

また、老朽化施設の修繕や航空機材の改修・更新にも着手し、将来の経営基盤の強化に努めた。

II. 内部体制の充実

1. 成果のあった点

新公益法人移行に向けての準備作業を計画的に進めることができた。

2. 改善を要する点

一部のスタッフに業務が偏重し、事業遂行に支障をきたす場面が見られた。

III. 実施事業

1. スカイスポーツの啓発普及に関する事業

(1) 市内外の学校を対象とした体験学習の受入

①市内各小学校を対象とした体験学習の受入(4校 166名)

東栄小 9名 (6/22)、第三小 83名 (6/24)、江部乙小 33名 (6/24)、
第一小 41名(10/29)

・特に成果のあった点

参加した子供達に大きな感動を与えると共に、郷土を認識させることができた。

・改善すべき点

本年は小学校全 7 校で実施を予定していたが、シーズン後半についてはスタッフ不足により十分な対応ができなかった

②学校を対象としたスカイスポーツ普及事業の実施 (4校 289名)

6月9日 納内中学校 18名 (施設見学)

8月25日 歌志内西小学校 21名 (施設見学)

9月18日 滝川幼稚園 190名 (施設見学)

9月29日 滝川幼稚園 60名 (施設見学)

③不登校生徒を対象とした体験飛行会の開催

7月14日 (火) 滝川市心の教育推進室 8名

8月31日 (月) 京都・椋川宿自然教室 6名

(2)こどもの日特別企画「こどもたちに大空のプレゼント」の開催

開催日：5月5日 (火・祝日)

対象：道内の小学生

体験飛行応募総数： 129名（前年比 26名減）

体験者数： 46名（前年比 25名減）

来場者数： 400名（前年比 100名減）

内容：体験飛行、施設見学、紙飛行機製作

・改善すべき点

昨年の反省を踏まえ、来場者にゆとりを持って対応できるよう、体験者数を55名（例年ベース）に戻して実施したが、当選者の当日キャンセルが多かった。

(3) 青少年会員・ジュニアグライダークラブの活動

操縦練習に力点をおき、クラブメンバーの拡充を図った（前年比 3名増、計 13名）

(4) 青少年他団体を対象としたスカイスポーツ体験学習会の支援

IACE（航空青年の国際相互研修）の受入

受入期間：7月28日～7月31日（4日間）

受入人数：11名

受入内容：体験飛行、そば打ち体験、ホームステイ

協力団体：（社）滝川国際交流協会

(5) 古典機活用事業

・改善すべき点

機体所有者との使用貸借契約に至らず、事業を進行できなかった。

(6) スカイパークの施設管理・運営

「たきかわスカイパーク」の指定管理者として、施設運営及び事業を展開した。

・特に成果のあった点

老朽化した市施設の修繕を代行した。（後述）

(7) グライダーパネル展の開催

9月20日「空の日」にちなんで、平成19年春に実施したグライダーによる日本縦断飛行「トランス Japan」のパネル展を開催した。

開催期間：9月18日（金）～9月30日（水）

開催場所：市役所1F市民ロビー

共催：毎日新聞社、滝川市

同時開催：毎日新聞社「ニッポン号」パネル展

(8) グライダーの屋外展示

ねりんピック2009マラソン大会の開催に合わせ、滝川駅前の会場広場にグライダーを展示した。

展示期間：9月5日（土）～9月6日（日）

2. スカイスポーツによる観光資源及び産業の開発（地域振興事業）

(1) スカイスポーツイベント「サマースカイフェスタ2009」の開催

開催日：7月26日（日）
共催：滝川市
来場者数：3,500人
※天候不順により、一部プログラムが実施できなかった。

(2) 観光客等の受入

- ① インターネットを活用した予約システムの拡大
新たに1社との契約を締結した。（北海道アクセスネットワーク株式会社）
- ② バスツアーの導入
CB ツアーズ 2回 11名
・改善すべき点
集客率の向上、天候不順時の連絡体制

(3) グライダー等による体験飛行会の実施

- ① 滝川市民を対象とした無料体験飛行会の実施
開催日：7月22日（水）～7月26日（日）
参加者：347名（昨年比22名増）
・改善を要する点：
夏休み前の実施となり、こども家庭の参加が少なかった。
- ② 一般市民対象の体験飛行会
4月18日（土）～11月14日（土）
※昨年末のリーマンショックの影響により春時期の体験者数が減少したが、夏以降順調に推移した。
797名（前年対比10名の減）
・改善を要する点；他地域との連携、中・韓への広報
- ③ HOSP A体験飛行会の支援
主催：（社）北海道スカイスports協会
開催日：6月27日（土）
参加者：16人
- ④ 全道地方法人会の体験飛行会
開催日：9月10日～9月12日
参加者：11人

(4) 「そらぷちキッズキャンプ」の支援

実施日：8月2日（日）	参加人員：17名
8月8日（土）	参加人員：19名
8月11日（火）	参加人員：4名
8月18日（月）	参加人員：3名

(5) イベント支援

- ① 千歳航空祭
開催日：8月9日（日）
場所：航空自衛隊千歳駐屯地
主催：航空自衛隊
支援内容：地上展示

来場者数： 125,000 人

- ② 2009 北海道スカイスポーツフェア ｲﾝ 当麻
「サマースカイフェスタ 2009」と同日開催だったため、同イベントに参加できなかった

3. スカイスports航空機の操縦技術・整備技術の向上と指導者の養成

初心者から指導者までの広範にわたる愛好者に対して、技量や要望に応じた各種の魅力あるメニューを実施して、飛行技術の向上を図る。また、スカイスports機材・施設の整備を図る。

(1) 各種操縦に関する指導

① グライダースクール

フリー受付：シーズン中の平日に随時実施

延べ飛行日数：64日（前年比8日増）

飛行回数：569回（前年比242回増）

飛行時間：381時間（前年比132時間増）

・改善を要する点：スタッフの休日の確保

② サマートレーニングコース

1週間単位のコースを8回実施

参加人員：109名（前年比9名減）

飛行回数：1,275回（前年比234回減）

飛行時間：557時間（前年比234時間増）

第1回：6月29日～7月4日 参加人員17名（前年比3名増）

第2回：7月6日～7月11日 参加人員7名（前年比1名減）

第3回：8月3日～8月8日 参加人員13名（前年比同数）

第4回：8月17日～8月22日 参加人員16名（前年対比2名増）

第5回：8月24日～8月29日 参加人員19名（前年比3名増）

第6回：9月14日～9月19日 参加人員14名（前年比5名減）

第7回：9月28日～10月3日 参加人員13名（前年比2名減）

第8回：10月5日～10月10日 参加人員10名（前年比9名減）

・改善を要する点：新たな対象分野の開拓

③ グライダークラブ

4月下旬から11月上旬までの間、主として土・日曜日、祝祭日に飛行活動を実施

延べ飛行日数：70日間（前年比5日減）

飛行回数：1,997回（前年比391回増）

飛行時間：1,128時間（前年比32時間増）

・改善すべき点

天候不順により、クロスカントリーを常態化できなかった。

ミニコンペを実施できなかった。

④ クロスカントリー・キャンプ

強化週間を定めたが、天候不順によりキャンプを実施できなかった。

⑤ グライダーキャンプの受入

#1 大学生・新社会人を対象としたユースキャンプを受け入れた

開催期間：7月28日（火）～8月1日（土） 5日間

参加人数：8名

（プレキャンプ：6月10日～17日 8日間 2名参加）

#2 北海道大学の合宿を受け入れた

実施期間：5月2日（土）～5月4日（月） 9名参加

(2) 各種受験に関する指導

- ① 自家用操縦士（滑空機）受験について、受験対策講習を実施
実地試験 上級（2名）全員合格（前年比2名増）
- ② 国土交通省航空従事者試験官の技量拡張訓練及び受験指導を実施
実地試験 滑空機（上級） 1名合格
- ③ 日本滑記章及び国際滑空記章に関する指導並びに試験
スクール会員及びクラブ員に対して、次の内容の指導・試験を
24件実施（前年比12件減）
日本滑空記章 A章×6、B章×3、C章×5、銅章×6、
国際記章 銀章1、銀章課目(5hr×1、50km×1)

(3) 各種講習会の実施（講師派遣）

- ① 認定安全講習会： 自家用操縦士対象 4月11日（札幌）
- ② フライトセミナー： 愛好者対象 5月～10月（必要に応じて、随時）
- ③ スカイスports教室： 一般対象 （社）北海道スカイスports協会と連携
・改善すべき点
上記各講習会に講師を派遣するに至らなかった。

(4) 国際交流事業の推進

- ① 教官の派遣
南半球を訪れる日本人パイロットの教育を現地のグライディングセンターと協同して実施した。
期間：平成21年12月20日～平成22年1月20日
派遣人数：1名（日口裕二）
派遣先：オーストラリア国ワイケリー・ソアリングセンター及び
ニュージーランド国オマラマ・グライディングセンター
- ② 曳航機パイロットの招聘
各種飛行事業の円滑な推進のために曳航機パイロットを招聘した。
招聘者：ジョン・ブライス氏（オーストラリア国）
期間：7月29日～9月16日(7週間)

(5) スカイスportsに関する機材及び施設の整備

- ① 航空科学研修センター塔屋の補修を行った
- ② 航空動態博物館排煙窓の補修を行った
- ③ 自動車用ガソリン対応エンジンへの改修（曳航機）…改修中
- ④ 高高度航空管制用自動応答装置（トランスポンダー）の装備（グライダー）
機材選定中
- ⑤ 移動指揮所（ソラリウム）の補修を行った

⑥ 練習用グライダーを購入（計4機）した

4. スカイスポーツに関する調査研究

(1) スカイスポーツ関連の情報収集

海外のグライダー界の状況を、国内にあっては各クラブ及びマニアの動静を重視し、情報の提供においては、あらゆる機会・媒体を捉えて、事業内容を中心として積極的に発信する。

① 最新の情報、一般の人にも認知されやすい内容に変えていく
ホームページ年間アクセス数 52,842件（1月31日現在）
対前年比 3,323件減

② パンフレットの活用、観光業者との連携
ニセコ・旭川エリアなどの観光先進地域との連携を図るに至らなかった

(2) スカイスポーツ機材・制度の研究

① 環境対応型動力グライダーの開発

ソーラーパネル、電動モーター、バッテリーに関して調査を行い、協力企業との連携を進めることができたが、事業資金（補助金等）を得るには至らなかった。

② 新たな収益事業の創出

石狩川水系を活用したチョウザメの飼育に関する調査を行った。

5. 航空情報提供事業

たきかわスカイパークを利用する航空機に対して、フライトサービス局の運用や気象情報の提供等、必要な飛行支援を行う。

IV. 航空安全

日々の安全な運航態勢を構築するとともに、飛行に関わるスタッフ及び会員の安全意識を堅持して、無事故記録4,016日を更新した

無事故目標： 4,016日